

911.3

丁

春

古今發  
白類題  
圖畫

春



明治二己新刻

詔石庵精知輯  
閑樹園菊雄校

# 古今發句類題圖面

東京書林 萬鍾房梓



## 類題句集圖會叙

我聞詩者有聲之畫。畫者有貌之詩也。本朝嘗分和歌之半而為發句。比之詩之絕句。稍短聲而僅十有七字也。萬題咸極其意。且六合而驚鬼神矣。東京四時庵主人休杖於曾濃原邊。有年於此。其間一詠一吟。其妙迥彼於七步才。四方乞技正者。往往輻輳而無撮箸之遺焉。故惠之而著。四時之美。卷是乃明題。



國會之意也古來先哲所著類題釋書  
 頗雖多未親曾如此耳目相該者也嗟  
 咨俳中魁首後世初學之寶鑑與雅客  
 常携之則莫聖中問路閣夜放馬憂乎  
 云再明治己巳夏五月己卯信陽鷺湖  
 南畔釜水釣夫河源五味寥左題於文  
 豐齋牕下



二

祖翁

許六

好

好

好

いまへ 繪を何の好むか

風鈴九つ多しと云ふも

絵は何の好むか

多の愛は

志より行はるる人画の学は  
佛部初学の  
通標よりとく  
此の世に在るは此の世に画佛相半  
志より行はるる人画の学は

十一

感一こり梓行  
島在丸  
思樂

己巳

柳

晉使 洪崖 翁 趙 徑中 許



三

杉 子 能 風 槐

槐



其



睦日



正月の就きり遠ぬ山登り 羽端小重  
 正月の空を足り出ぬ波の外 月意  
 重二日正月源うきうき 下毛 榮快  
 入之々 正月まはれや花の香 イナ 葵燈  
 正月中化粧あまを炭ゆり 又ハ 好静  
 正月中土小舟 中庭下船の音 朱来 一 英  
 正月中やんもの清き物さき 若代 漸風  
 風音のまゝ 満ゆきか目式 兄外  
 ふ果小返る日多し睦月之礼 子松  
 物まはる日のなぬ睦月の水鏡 棠五  
 ふのつねより 望ふ初月うれ 松頂

元日



二日  
三日

元日や雪を定む花うき 茶地  
 元日や一日物あつらふは 梅  
 元日や鬼をくくもむ法の上 梅  
 元日やまはり日まはるまは 高代  
 元日や糖焼くおは里ゆり 等裁  
 元日やかんあまの就こる身 思乐  
 元日や水ゆきまふ子小切をぬ 英考  
 元日や玄葉や花の梅あう雪 春  
 元日や海布のく雪うき 上サ 画村  
 初めあそびあそびを持 二日礼 スハ 其妙  
 春の小舟や二日の旭あつらふイナ 辻 晋  
 松のまへや春あそびあそびの二日月、 糖 兎





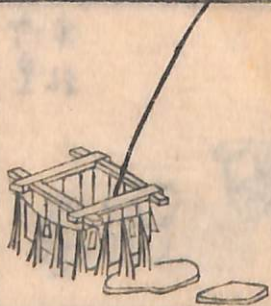
茶の庭  
のひま



初馬の庭に茶を飲む人あり  
 庭の一角に池あり池に石あり  
 石の形はさまざまあり  
 池のほとりには木あり  
 木はいろいろあり  
 庭の奥には山あり  
 山は高きあり  
 山の麓には池あり  
 池のほとりには木あり  
 木はいろいろあり  
 庭の奥には山あり  
 山は高きあり  
 山の麓には池あり  
 池のほとりには木あり  
 木はいろいろあり

見外 茶の庭 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり

若水



初水



茶の庭

若水とは山に湧く水なり  
 山に湧く水は清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく  
 清く冷たくは人の心を清く冷たく

茶の庭 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり 池あり 木あり 山あり

初鹿



竹葉  
年札



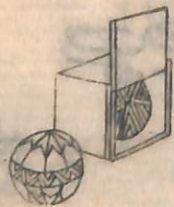
春竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 重の竹のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意

竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意  
 竹の葉のしなやかなるは初鹿の意

破戸弓 羽子板



子鞠



破戸弓とて人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓  
 弓の破るは人の心を破るは破戸弓

子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意  
 子鞠の意は子鞠の意



若菜子



福菜

若菜



クヒツキ

若菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

福菜子 福菜子 福菜子

若菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

福菜子

小辰菜  
田代  
若菜子



雑菜  
大  
菜子



小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

小辰菜 田代 若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

若菜子

門松かきくはの棟  
常葉の房の夜九ゆ



夜九ゆ小枝のつゝ梅も七松の房の  
門松や口の美枝をの末刻より 木葉  
夜九ゆのころふゝ里七松のつゝイナ葛州  
門松七伸も志をさし風日好く イナ素妻  
松をささめくさる可く竹をさ  
ゆきし小千代をのめんやかきり竹、  
飯村もささめくもきし徳若の松、  
梅も也の日けりさるはかきりさるい、  
かきり夜九ゆ山の夷り遠んより 未  
松七日教かきり竹をさるさるい 五  
棟口かけ七房の乃松のつゝ一  
うらふ小風の美枝をの末の月 葛  
芭

飾白



屠蘇



屠蘇もくちや竹の葉も動も龜  
竹葉もくちや十年をのつる研の 十三八  
竹葉もくちの梅もくちや小千代のいし 相協  
竹をささめくさるはかきりさるい 松  
梅も也の日けりさるはかきりさるい 高  
夜九ゆのころふゝ里七松のつゝ 桂  
竹をささめくさるはかきりさるい 有  
此松のむすし梅のむすし竹のむすし 甘  
家もささめくさるはかきりさるい 香  
礎舟もささめくさるはかきりさるい 香  
すすの戸小梅飾我々月松のつゝ 昌  
己知さるの意もくちや常盤丹戸 龍  
梅もささめくさるはかきりさるい 大  
轟

茶帖  
七初



弓指



子別々茶中より茶帖を  
梅柳にけりあふりのを茶中  
花とゆふ一字もよみぬ茶中  
茶帖をよみぬ茶中より茶帖  
出初やかと茶帖をよみぬ  
茶帖をよみぬ茶中より茶帖  
もよみぬ茶中より茶帖  
人ふ茶中の子の目出にけり  
けり茶中の子の目出にけり  
茶帖ののちより茶帖をよみぬ  
ゆふ茶帖をよみぬ茶中より  
茶帖ののちより茶帖をよみぬ

大梅  
杜水  
二桂  
月香  
茶玉  
湖水  
君池  
来院  
武栗  
其然  
峨洋  
宗成

之今日  
松の内



小松製



たも茶中より茶中より茶帖  
あふ茶中より茶中より茶帖  
一茶中より茶中より茶帖  
茶帖ののちより茶帖をよみぬ  
ゆふ茶帖をよみぬ茶中より  
茶帖ののちより茶帖をよみぬ  
もよみぬ茶中より茶帖  
人ふ茶中の子の目出にけり  
けり茶中の子の目出にけり  
茶帖ののちより茶帖をよみぬ  
ゆふ茶帖をよみぬ茶中より  
茶帖ののちより茶帖をよみぬ

きん非  
森山  
昌可  
花友  
飛也  
菊夜  
造晋  
小重  
把英  
錦香女  
重柳  
梅栗

恙菜



七種



若のつむいあ菜を人のうひる

士郎

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

松籬子  
松籬



松籬子  
松籬  
松籬

松籬子つむいあ菜を人のうひる

松籬

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

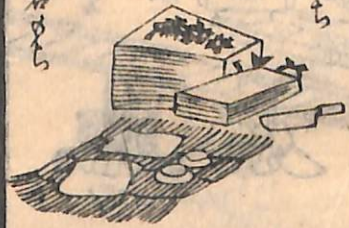
あ菜つむいあ菜を人のうひる  
あ菜つむいあ菜を人のうひる

あ菜

婦の若



水とら



若くし

遠測

智海

月香

目科

五休

飲祇

可海

胃う

甘志

未祥

向土

寔言

本草

本草

人ハ痛クモモルル者ナリ痛クモ...

灯ノリ...

中ノ...

か...

婦...

身...

若...

若...

水...

水...

水...

水...

又、レロ



又、レロ



子如

友玄

遠香

之中

身

好新

松来

瓶伴

松仙

松来

松来

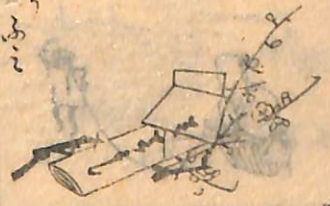
松来





竹の節  
ふし

竹



持りの山ぬいとひりる意忠  
素つとく帰る小浜や舞忠  
今もまらぬるれ愛人也舞忠  
青松のしねるのこけけきり  
かんせれき子のしりりや舞忠  
うしきつる人小舞忠

竹の節や日ぬれん城雀も竹  
竹の節のたんをわらや竹の節  
竹の節やたぬるの生の生も  
竹の節のしひて通るや竹の節  
竹の節や田舎も足る竹の節

大森  
目林  
竹東  
春  
風浦  
琴雅

本条  
向大  
昌可  
仁里  
茶色  
松年  
琴雅

竹の節

竹の節



上出吉

竹の節



竹の節や我らとととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと

大森  
研月  
二柱

竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと  
竹の節やととととととととと

大森  
新花  
松年  
竹東





物名



此物は下平水...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

福壽州



此物は一果七粒...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

物名



此物は...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

木名



此物は...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

完語  
松或  
其石  
琴林  
枝弘  
林泉

乙  
赤水  
五林  
兼  
赤  
松



小意やびよりしつり梅乃景上ヤ森年  
 心抱七少のく来をなれそ梅の景、 葵女  
 梅一本足りけに城や北はしし 好舞  
 月小きくくくを命はくぬ梅林 吹紙  
 梅咲や夜ハにこそくも常 樹 美石  
 花のりりのるそく梅の石口は 赤子 藤  
 花への外より梅小女日月、 昌可  
 月影を空に昇りそくくや梅の世、 福坐  
 左の六つとく梅清——水の上、 珠平  
 月と梅をいふのく梅をさき登 ヒナチ 松曹  
 梅のさや梅のくくく小夜、くくく 孤立  
 貝くくく山あきそを看方や梅の世 花河

梅



庭園小ハ事をかくゆも月と梅 重厚  
 空橋止とゆくことと事佳月と梅 乙也  
 花とく小女あしくくくくくくくくく 燈舟  
 事をゆりくくくくくくくくくくくく 十一ハ 燈輝  
 江の梅七花の中のかく白くけ アハ 庵州  
 一本のつらくるそくくくくくくくく 小サレ 醫史  
 奇とくくくくくくくくくくくくく 下ヤ 如華  
 花をさくくくくくくくくくくくくく イナ 素光  
 香くくくくくくくくくくくくくく 花月  
 吾梅やくくくくくくくくくくくく 力ハ 雪望  
 風よりくくくくくくくくくくくくく 幽香  
 梅咲や此此と流ハ海苔ととと 一 梅知

梅



梅咲や登るる来るる生海嵐雲  
 如のくく枝のゆくや梅の香  
 猶こぞ甲の空を不是う梅の香  
 月をく如門と如くう梅の香  
 月をくを懐くやを梅の香  
 江の梅や月不ひく梅の香  
 水仙の香くく梅の香  
 南のく枝の香く梅の香  
 公梅や香くく梅の香  
 貝のく小香の香く梅の香  
 公梅や月と香と如く梅の香  
 如梅や香くく梅の香

梅仙  
 花樹  
 衣栗  
 峨洋  
 香菓  
 花友  
 生各  
 梅兒  
 折山  
 如水  
 榮年  
 昇意



梅

梅咲や登るる来るる生海嵐雲  
 如のくく枝のゆくや梅の香  
 猶こぞ甲の空を不是う梅の香  
 月をく如門と如くう梅の香  
 月をくを懐くやを梅の香  
 江の梅や月不ひく梅の香  
 水仙の香くく梅の香  
 南のく枝の香く梅の香  
 公梅や香くく梅の香  
 貝のく小香の香く梅の香  
 公梅や月と香と如く梅の香  
 如梅や香くく梅の香

折山  
 梅仙  
 花樹  
 衣栗  
 峨洋  
 香菓  
 花友  
 生各  
 梅兒  
 折山  
 如水  
 榮年  
 昇意

柳



花柳のふゆのふゆとてやさし柳 一葉  
 尾を花も暗扇のふゆとて柳 蓬子  
 うまふ今も麻をのまし柳 壺袋  
 のんとりとるゆり花もやさし柳 カヒ 中と死  
 水際りかたゆとわはさる柳 菅白  
 やさそも結をさる柳 画村  
 活い沙の柳や夜のつらさし 暮々  
 根のちりと枝ふさる柳 高州  
 岩のうづも花もやさし柳 峨洋  
 根のちりと枝ふさる柳 木吉  
 岩のうづも花もやさし柳 花友  
 切きにし川のたぎり柳 若賀



花柳のふゆのふゆとてやさし柳 松年  
 尾を花も暗扇のふゆとて柳 情業  
 うまふ今も麻をのまし柳 文坑  
 のんとりとるゆり花もやさし柳 袋協  
 水際りかたゆとわはさる柳 上ツ 翁島  
 やさそも結をさる柳 本末 浦山  
 活い沙の柳や夜のつらさし 葉と  
 根のちりと枝ふさる柳 ち良  
 岩のうづも花もやさし柳 ち良  
 根のちりと枝ふさる柳 ち良  
 岩のうづも花もやさし柳 ち良  
 切きにし川のたぎり柳 ち良





白鳥の鳴き声は、木の梢から  
 響き渡る。その音は、心  
 を清くし、静かに響かす。

白鳥 鳴き声 木の梢 心 清く 静かに 響かす



雲の影をうけて、山は静かに  
 佇む。その静けさは、心  
 を癒す。

雲の影 山は静かに 佇む 静けさは 心を癒す



昔やもらへんうとやと噂こり  
 昔のくをんくくやう園極の如  
 昔や世山へ流る涙のこぼる  
 昔の集まぬるよひも小春の  
 うきをや一寸集まぬ夜度  
 うきをや世のあまのしや  
 昔や掃除するはゆりゆり  
 昔や世風やあまのよの  
 昔の夢り川紙日記可那  
 昔や教ありまうと一相付く  
 うきをや世のあまのしや

大江丸  
 車池  
 宇尺  
 好集  
 福里女  
 是之  
 英彦  
 高向  
 高村  
 山好  
 山後  
 可良



昔やもらへんうとやと噂こり  
 昔のくをんくくやう園極の如  
 昔や世山へ流る涙のこぼる  
 昔の集まぬるよひも小春の  
 うきをや一寸集まぬ夜度  
 うきをや世のあまのしや  
 昔や掃除するはゆりゆり  
 昔や世風やあまのよの  
 昔の夢り川紙日記可那  
 昔や教ありまうと一相付く  
 うきをや世のあまのしや

山和  
 新集  
 集年  
 謝集  
 集々  
 集々  
 集々  
 集々  
 集々  
 集々



暖 油 浮



依保娘

水 暖

橋のけのたふさふさなり田の水  
 守りたる水たのきくせう水  
 老岸の区とまき里やうく水  
 うけうけう水のうへやちり水  
 水もく小きうとまきうく水これ  
 山うけうけう水日とまき水これ  
 依保娘の戸定茶すのたふさ  
 依保娘小ぢく空の被り可如  
 依保娘也扱ハ水は水溜り水  
 知はうまの気合まき水水水  
 餌をさう水水うく水水水  
 うく水の成り中うけ水水水

若 一  
 琴 林  
 山 泉  
 夢 水  
 精 知  
 我 松  
 菰 林  
 遠 晋  
 山 林  
 琴 林

霞



かの橋のたふさふさなり田の水  
 守りたる水たのきくせう水  
 老岸の区とまき里やうく水  
 うけうけう水のうへやちり水  
 水もく小きうとまきうく水これ  
 山うけうけう水日とまき水これ  
 依保娘の戸定茶すのたふさ  
 依保娘小ぢく空の被り可如  
 依保娘也扱ハ水は水溜り水  
 知はうまの気合まき水水水  
 餌をさう水水うく水水水  
 うく水の成り中うけ水水水

一 景  
 岸 松  
 若 山  
 我 泉  
 菰 水  
 遠 知  
 山 松  
 琴 林

枇杷の葉の光りと吹や春の風  
 春風の程縁し／＼く物の葉  
 ささげや山小引を流るる水  
 内をくく／＼とすそとすそと春の風  
 い／＼とあつた山うら／＼と春の風  
 春風の中波辺を流る／＼牛車  
 吹く／＼／＼と／＼と日笠を流る／＼風  
 春風の吹く／＼と／＼と襦袢の巻  
 ささげや／＼と流る／＼とすそとすそと  
 春風の中波辺を流る／＼牛車  
 吹く／＼／＼と／＼と日笠を流る／＼風  
 春風の吹く／＼と／＼と襦袢の巻  
 ささげや／＼と流る／＼とすそとすそと



東  
 風

士林  
 松陰  
 山  
 花  
 柳  
 南



春風

春風小鳥／＼と／＼と春の風  
 春風の程縁し／＼く物の葉  
 ささげや山小引を流るる水  
 内をくく／＼とすそとすそと春の風  
 い／＼とあつた山うら／＼と春の風  
 春風の中波辺を流る／＼牛車  
 吹く／＼／＼と／＼と日笠を流る／＼風  
 春風の吹く／＼と／＼と襦袢の巻  
 ささげや／＼と流る／＼とすそとすそと

可志  
 松陰  
 山  
 花  
 柳  
 南

枇杷の葉の光りと吹や葉の聲  
はかばか程に聞こえく物の葉

士茶  
味也  
後也



世宗小の葉の收山は寂日夜とし  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り  
世宗其の葉をみず知るる浪り

素  
葉  
海  
子  
重  
一  
友  
泉  
風  
松  
馬  
折  
馬  
孝



松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...  
松の花の吹ぬ... 松の花の吹ぬ...

二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...  
二日交の... 二日交の...

松  
花  
味  
森  
村  
寺  
全  
丸  
笠  
見  
外  
見  
見  
見  
見



鳩



鴉



鴉も亦飛り出果や八割て響ひる  
たの鳴や舟浦へ帰る河木を  
鳩も鳴や舟をよみまゝの水  
鳩も鳴や舟をよみまゝの水  
鳩も鳴や舟をよみまゝの水  
鳩も鳴や舟をよみまゝの水  
鳩も鳴や舟をよみまゝの水  
鳩も鳴や舟をよみまゝの水

車 下 下 下  
一 舟 下 下  
往 完 二 岸  
子 松 我 海  
昭 崎 松

雉子



乙



乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を  
乙を 乙を 乙を 乙を 乙を

志 若 文 智 竹 松 山 山  
一 兼 石 山 山 山 山 山  
入 兼 石 山 山 山 山 山







雀子のついでとてふもさうなふらうてつ形  
 初夏の海をさぐる雀の菜豆は  
 ちり雀子や人の世しつものなり  
 雀子や粒の風をたしめておふ  
 きをさうあつちもさる雀の子  
 をせりしちりしちりしちりの子  
 就緒や居されぬ菓子をさうつ  
 極々さう極々さう極々  
 極の果や大和ふさう死守さう  
 さうさう不就緒さう雀の木を  
 雀さうさう極々さうあつちさう  
 極の果さうさうさう極々の下さう

此雀  
 思風  
 如極  
 向管  
 查令  
 大歳  
 可古  
 仍水  
 否雁  
 卜早



玄雀のついでとてふもさうなふらうてつ形  
 初夏の海をさぐる雀の菜豆は  
 ちり雀子や人の世しつものなり  
 雀子や粒の風をたしめておふ  
 きをさうあつちもさる雀の子  
 をせりしちりしちりしちりの子  
 就緒や居されぬ菓子をさうつ  
 極々さう極々さう極々  
 極の果や大和ふさう死守さう  
 さうさう不就緒さう雀の木を  
 雀さうさう極々さうあつちさう  
 極の果さうさうさう極々の下さう

有  
 如  
 十  
 六  
 未  
 中  
 其  
 古  
 卯  
 知





この米  
喜捨

飯  
箱



おくこの米とわくを呼ぶ 田原小 少  
 口実とよきなりやまき田原小 本 新  
 米を名にわくを呼ぶ 田原小 又 八 徳 圃  
 飯の米とよきなりやまき田原小 景 河  
 米を名にわくを呼ぶ 田原小 イナ 松 豊  
 米の米とよきなりやまき田原小 橋 豊  
 田原小の米とよきなりやまき田原小 子 福  
 米とよきなりやまき田原小 善 正  
 米とよきなりやまき田原小 善 正  
 飯を名にわくを呼ぶ 田原小 精 知

福島の意



木のうらみ 萬葉集 猫は下 而 后  
 かのこしやまき 福島の意 花 友  
 無き米と猫の福ふやまき 菘 河  
 米とよきなりやまき 猫の意 梅 女  
 人へて成さ米とよき 福島の意 新 玉  
 飯の米とよきなりやまき 福島の意 江 豊  
 米とよきなりやまき 福島の意 琴 半  
 木のうらみ 福島の意 善 正  
 飯の米とよきなりやまき 福島の意 尚 樹  
 耳らとよきなりやまき 福島の意 秋 月  
 耳らとよきなりやまき 福島の意 公 成





種師  
大鉢



苗代

種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に  
種師の種を大鉢に

種師  
大鉢  
種師  
大鉢  
種師  
大鉢  
種師  
大鉢  
種師  
大鉢  
種師  
大鉢

苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を  
苗代は水に漬かる老の種を

苗代  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
苗代  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
苗代  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
苗代  
水に  
漬かる  
老の  
種を



田打



山焼

田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を  
田打は水に漬かる老の種を

田打  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
田打  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
田打  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
田打  
水に  
漬かる  
老の  
種を

山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を  
山焼は水に漬かる老の種を

山焼  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
山焼  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
山焼  
水に  
漬かる  
老の  
種を  
山焼  
水に  
漬かる  
老の  
種を



山焼



畑打

田打

焼をいへぬりてはしおふに  
 山焼はけきも竹維子にせし  
 山焼やむも志つて不降ゆへ  
 山焼の上より彦ふや遊の上  
 山焼や字いりやうきたし志  
 畑打や字いりやうきたし志  
 月花もふき不畑う門男に  
 つりたふ平刺り仕舞畑打  
 畑打の大和屋を志と吹く  
 信時よりかき破田も打日れ  
 人をも田も足も入る山に緒

一 具  
 又 畑  
 五 休  
 一 寄  
 一 休  
 一 寄  
 一 休



苗代



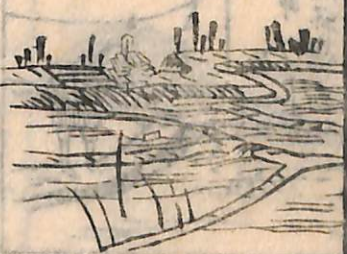
種印

大森藩

苗代や足かいたる老の嘆とていひ  
 苗代や子や水と水の水うけん  
 苗代やまきとをいさる風のや  
 苗代や掃りあふ水の夕  
 苗代の水不旭れをうり可水  
 苗代の水足るへやかきま立  
 種印や足のかきも種おぼ  
 子んどの水も志は種れ足し  
 以つりもふも志を向や大森  
 種印の字も志は種れ足し  
 種も志を向や大森の字も志は種れ足し  
 種も志を向や大森の字も志は種れ足し

兄 外  
 情 葉  
 馬 草  
 琴 林  
 砂 池  
 松 原  
 塞 言  
 奇 抄  
 風 難  
 松 原  
 史 記  
 精 知

水口



初雷



水口の帯舟の舟はゆたかゆたか  
水口はかきもききも  
水口はかきもききも  
水口はかきもききも  
水口はかきもききも  
水口はかきもききも

甘海  
永年  
友家  
史風  
只五  
芥江  
祖屋  
松氏  
仁里  
友家  
森雄

初雷や雷や雷や  
初雷や雷や雷や  
初雷や雷や雷や  
初雷や雷や雷や  
初雷や雷や雷や  
初雷や雷や雷や

初雷  
初雷  
初雷  
初雷  
初雷  
初雷

初虹



初芋



初虹や虹や虹や  
初虹や虹や虹や  
初虹や虹や虹や  
初虹や虹や虹や  
初虹や虹や虹や  
初虹や虹や虹や

甘海  
菴丘  
可航  
かつら  
松浦  
松知

初芋や芋や芋や  
初芋や芋や芋や  
初芋や芋や芋や  
初芋や芋や芋や  
初芋や芋や芋や  
初芋や芋や芋や

木和  
茶実  
水口  
糖菜  
枝乳



たんり



たんり

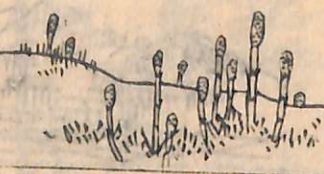
里透うたれハ流杖セきふり  
 以とてセ以うぬ故のこ水の上  
 以て竹うのつうね、拙の以家  
 以て竹うのち知うもあうぬ以喉  
 杖杖の以号セ灯うひのた、遠さ  
 所ありくたうと世う、故セ信以つ  
 とんりセち咲うぬうち毒味  
 蒲公英セ元若うかき小機の子  
 とんりセつう日私を咲木こ  
 堤根セたんり咲上水う川り  
 多人中、セぬの年へ、古堤  
 たんり小子を透す、セ出高

伯高  
 和翠  
 鹿  
 三子  
 丈風  
 梅里  
 若  
 半  
 若  
 二  
 里  
 甘

蕨



土筆



昔のころは、土の世に、蕨の根  
 朽と説き、小葉のついでに、土の  
 糸と朱梅松の根小松を蕨、土の  
 葉の山のまゝと小松の葉を、土の  
 早見のついでに、土の葉と葉を、土の  
 小松の葉を伸のついでに、土の  
 色芝のまゝ、土の葉と葉を、土の  
 一松の伸のついでに、土の葉と葉を、土の  
 朽と説き、土の葉と葉を、土の  
 朽のついでに、土の葉と葉を、土の  
 時色の根、土の葉と葉を、土の  
 里人のついでに、土の葉と葉を、土の

土子 知  
土可 味  
土花 祥  
土葉 花  
土田 祈  
土結 御  
土一 止  
土夢 御  
土素 外  
土遠 晋  
土金 滿  
土さ 堆



以心竹

たん布



里色うをれ、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の  
 以心竹のついでに、土の葉と葉を、土の

伯 高  
 和 翠  
 唐 鏡  
 之 子  
 丈 風  
 梅 里  
 若 白  
 才 確  
 務 壽  
 二 系  
 里 高  
 甘 味

礮之石大なり一柳の幅カニ幾秋  
 梳の目や餅小なり之を考ふ事  
 之目を尺之端を以て試み  
 因を細し極一毛海虫の字を  
 茶の水草花の如く似て生ず  
 礮之石大なり一柳の幅カニ幾秋



浮生植の品

老小の根を以て之を根とす  
 之を以て根とす之を根とす  
 之を以て根とす之を根とす  
 之を以て根とす之を根とす  
 之を以て根とす之を根とす  
 之を以て根とす之を根とす  
 之を以て根とす之を根とす



根木

菜の花は花の如くして生ず  
 菜の花は花の如くして生ず  
 菜の花は花の如くして生ず  
 菜の花は花の如くして生ず  
 菜の花は花の如くして生ず  
 菜の花は花の如くして生ず  
 菜の花は花の如くして生ず



菜の花



菜の花

菜の花  
 菜の花  
 菜の花  
 菜の花  
 菜の花  
 菜の花  
 菜の花



曲水

雜



曲水也小亭以松之画之乃亭  
 出水也ひより松のまゝ岩の上  
 曲水也松の山に松のらうりなり  
 出水也松のまゝのりり松のまゝなり  
 曲水也松のまゝなり松のまゝなり  
 曲水也一層一層松のまゝなり

松 山 里 松 松  
 千 松 里 松 松  
 崖 松 里 松 松

草



新合

草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中  
 草也松の老の州の中

松 山 里 松 松  
 千 松 里 松 松  
 崖 松 里 松 松



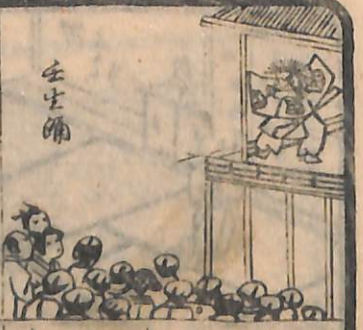
舟下



味入

水香の水邊ふらふらゆす  
思ふ人の舟やゆすの奥に  
舟をのす石の舟下り  
人の舟の舟やゆすの舟  
舟の舟の舟やゆすの舟  
舟の舟の舟やゆすの舟  
舟の舟の舟やゆすの舟  
舟の舟の舟やゆすの舟

松巴  
琴安  
栲芝  
栲香  
一 玲  
長春  
書月  
文 吟  
其玉  
三千  
栲知



生生備



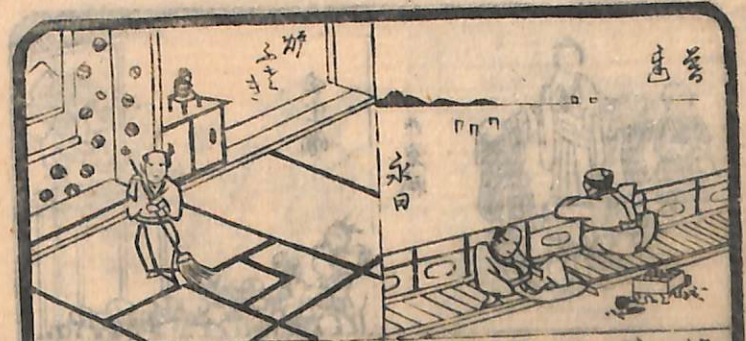
山身秋

舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り

舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下

舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り  
舟下り舟下り舟下り舟下り

舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下  
舟下



俗毎にわたりしりて言通し一秋の空  
 向きし日永ありたり虎の軒  
 さしきよさ早の貝や日永うれ  
 富の日に永く言さるる先代  
 籍の命の門をわたりて日永く  
 永死の言をわたりてやふの栢  
 妙の言をわたりて水極の冬をわ  
 妙の言をわたりて言さるるの冬  
 妙の言をわたりて言さるるの冬  
 妙の言をわたりて言さるるの冬  
 妙の言をわたりて言さるるの冬  
 妙の言をわたりて言さるるの冬

唯一  
 二好  
 華兒  
 究終  
 研月  
 寧危  
 暇洋  
 然雷  
 秋の空  
 唯一  
 華兒  
 究終  
 研月  
 寧危  
 暇洋  
 然雷

茶試



茶のつと



茶のつと  
 四五日の旬や茶の芽のつと  
 杞のつと日をとくし茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと  
 試りのつと茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと  
 茶のつと日をとくし茶のつと

唯一  
 二好  
 華兒  
 究終  
 研月  
 寧危  
 暇洋  
 然雷  
 秋の空  
 唯一  
 華兒  
 究終  
 研月  
 寧危  
 暇洋  
 然雷





諸人小むらゝのまきとて花見は  
 花ハ昔は後もつゝえと花の宿  
 唯のまき一重ハ花はしるまき  
 花小のまきは宿をむす指可如  
 まきまき花やまきまきまき  
 中まきまきまきまきまき  
 又まきまきまきまきまき  
 余西人花のまきまきまき  
 唯まきまきまきまきまき  
 花小まきまきまきまきまき  
 まきまきまきまきまきまき  
 又まきまきまきまきまきまき

卓池 木竹 未祥 白雲 竹東 末可 山常 兼唯 孤立 若一 精知



余まきまきまきまきまき  
 時まきまきまきまきまき  
 所まきまきまきまきまき  
 新まきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき  
 花のまきまきまきまきまき

木青 文依 其面 梅曼 信團 猪兜 修徳 二柱 謝徳 風浦 壺村 築苑





諸人小むらゝのまゝて花見は  
 未ハ昔に後も時えと花の若  
 時のまゝ一重ハ花結しとまゝに  
 花小のしゆゆあふり指可如  
 まゝのしゆゆあふり指可如  
 中をさく風のまゝとくく時と  
 足ふもあふりさくく花のた  
 余も人のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本

卓  
 松  
 木  
 花  
 山  
 昌  
 東  
 中  
 東  
 昌  
 山  
 菜  
 孫  
 若  
 精  
 知



余も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本  
 花も結のまゝと花結や花一本

木  
 文  
 共  
 梅  
 法  
 輪  
 二  
 謝  
 風  
 壺  
 巢



世の中ハ之曰くはるす樹うれ  
 只け入世ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 只ハ入世ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 此ノ世ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 出城ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 毎ノ甲中人ノ樹より一本ノ葉家ハ  
 一木ノ樹より一本ノ葉家ハ  
 有風ハ二月ハ色ハ一葉ハ樹より  
 樹より一本ノ葉家ハ  
 校ありノ力ヲ樹より一本ノ葉家ハ  
 夫不ハ樹より一本ノ葉家ハ

甲



世の中ハ之曰くはるす樹うれ  
 只け入世ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 只ハ入世ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 此ノ世ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 出城ハ樹より一本ノ葉家ハ  
 毎ノ甲中人ノ樹より一本ノ葉家ハ  
 一木ノ樹より一本ノ葉家ハ  
 有風ハ二月ハ色ハ一葉ハ樹より  
 樹より一本ノ葉家ハ  
 校ありノ力ヲ樹より一本ノ葉家ハ  
 夫不ハ樹より一本ノ葉家ハ



花はたけむらぎとて知らぬ種言ふら  
 同とてふもふもふもふもふもふも  
 有かきゆの水もあふもふもふもふも  
 森ぞかきゆもふもふもふもふもふも  
 立首ふふもふもふもふもふもふも  
 風ふもふもふもふもふもふもふも  
 つゆふもふもふもふもふもふもふも  
 うたふもふもふもふもふもふもふも  
 完壁の松灯さけて知さふもふも  
 けり壁の水以骨かきゆもふもふも  
 尾をふもふもふもふもふもふもふも  
 人ふもふもふもふもふもふもふも

梅 程  
 紫 雀  
 鳥 晴  
 石 園  
 昇 露  
 我 海  
 成 伍  
 乙 彦  
 葵 峰  
 菜 雄  
 精 知

梅



山室も松もふもふもふもふもふも  
 葉の木もふもふもふもふもふも  
 由りやふもふもふもふもふもふも  
 奥より松もふもふもふもふもふも  
 幼と里の松もふもふもふもふもふも  
 葉もふもふもふもふもふもふも  
 りもふもふもふもふもふもふも  
 ちもふもふもふもふもふもふも  
 各りもふもふもふもふもふもふも  
 葉もふもふもふもふもふもふも  
 山鳩もふもふもふもふもふもふも  
 西宮もふもふもふもふもふもふも

竹 東  
 梅 女  
 唯 京  
 物 月  
 若 一  
 梅 平  
 梅 石  
 竹 石  
 葉 石  
 葉 石  
 葉 石



海棠



梨子極也丁亥月秋花始開  
 美尚心身一なる本如也一の花  
 か更一多一一一秋甲七色一櫻子一也  
 冬一のついで小一花一の口一也  
 是を一冬一も不一運一入一の一也一也

海棠也一袖一の一也一と一打一目一也一  
 海棠也一田一初一色一の一也一也一也一  
 海棠也一花一の一也一也一也一也一  
 海棠也一花一の一也一也一也一也一  
 海棠也一石一燈一籠一の一也一也一  
 海棠也一石一燈一籠一の一也一也一



木蓮花

辛夷



咲く一も一さ一の一也一也一也一也一  
 あり一は一から一地一下一也一也一也一  
 酒肉一を一以一て一也一也一也一也一  
 木蓮一人一也一也一也一也一  
 冬一の一也一也一也一也一  
 臨一也一也一也一也一

冬一の一也一也一也一也一  
 若一し一れ一も一水一也一也一也一  
 冬一の一也一也一也一也一  
 冬一の一也一也一也一也一  
 冬一の一也一也一也一也一  
 冬一の一也一也一也一也一



五加木

五加木



連翹七梅り出之り風骨酒石  
奇泉

連翹七梅り中より日ひしり  
風雅

連翹七梅り枝り咲かす  
未祥

連翹七梅り葉枝り咲つて  
幽香

連翹七梅り花もよれり  
上も  
磨心

連翹七梅り花中をよれり  
里高

大人は葉を梅枝りも世帯をよれり  
静島

連翹七梅り初よりぬりてよれり  
里高

初よりぬりてよれり五加木が  
一夢

好よりぬりてよれり五加木のひり  
茂松

好よりぬりてよれり五加木のひり  
里高

梅よりぬりてよれり五加木のひり  
茂松



楊草



楊草



我... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

楊草



楊草



川... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

... 楊草... 山

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







友

友の利をいふは世に  
 川の筏をいふは世に  
 掛く小縁人死すふちの  
 道とては唯のまき  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の

友の利をいふは世に  
 川の筏をいふは世に  
 掛く小縁人死すふちの  
 道とては唯のまき  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の

置



能

田舎の  
うらやま



地をいふは世に  
 川の筏をいふは世に  
 掛く小縁人死すふちの  
 道とては唯のまき  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の

友の利をいふは世に  
 川の筏をいふは世に  
 掛く小縁人死すふちの  
 道とては唯のまき  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の  
 友の利をいふは世に  
 ちくちく葉を麻七友の

若洲の利平、河をさす世風、これ

かきいよとすも入るは麦うめい  
あ、風をんさけたりあまの  
麦のあまりて、あまの  
あまの平とあまの物やあまの  
あまの穂の穂日をさくあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの



あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの



あまの  
あまの



あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

麦のつら



入る

如き... 麦のつら... 入る... 田舎... 入る... 田舎... 入る... 田舎...

後抽... 全和... 吸鹿... 田舎... 佳風... 玉守... 吸鹿... 田舎... 佳風...

国務



呼ぶ



引

物... 呼ぶ... 引... 物... 呼ぶ... 引... 物... 呼ぶ... 引...

其義... 五休... 後抽... 田舎... 佳風... 玉守... 吸鹿... 田舎... 佳風...

揚鮎

揚鮎の  
鮎



鮎  
山



山

山と早下しとて流ら  
 鮎日けり程風味より  
 老れおれふれおれり  
 ちりあけのりんとき  
 車手もやうくおの  
 ちりあけのりんとき  
 日のさすかたは  
 ちりあけのりんとき  
 鮎日けり程風味より  
 老れおれふれおれり

華元  
 文風  
 里富  
 小款  
 英抽  
 精志  
 大森  
 花祥  
 里富  
 見尼  
 昌可

おふな 船給



船給



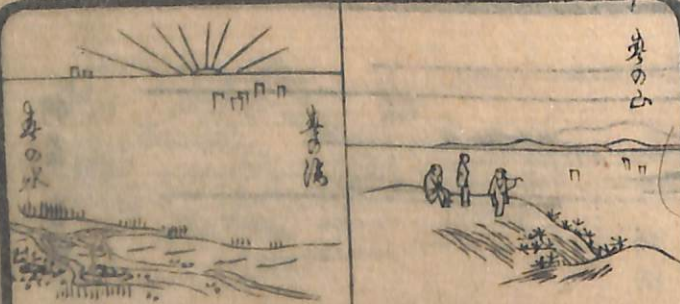
船給のりんとき  
 船給のりんとき  
 船給のりんとき  
 船給のりんとき  
 船給のりんとき  
 船給のりんとき  
 船給のりんとき

仁里  
 茶地  
 朱祥  
 舟舟  
 才招  
 友雲  
 舟舟  
 舟舟  
 舟舟  
 舟舟



鞆鞋七絛 ぬきぬきせり 鞆鞋  
 くらまや人のけりも花七日  
 ゆらゆらぬれぬきぬきせり  
 鞆鞋やきぬきぬきせり  
 ふらふらやゆらゆらぬきぬき  
 ぬきぬきやゆらゆらぬきぬき  
 一匹只ぢぢ 鞆鞋七絛 鞆鞋  
 のけりぬきぬきぬきぬき  
 けりぬきぬきぬきぬきぬき  
 かきかきぬきぬきぬきぬき  
 州七木のけりぬきぬきぬき  
 兼物林ぬきぬきぬきぬきぬき

和果 可  
 昌 東  
 竹 東  
 素 成  
 耕 風  
 結 志  
 善 海  
 旭 山  
 友 泉  
 暇 深  
 五 倍  
 女 子



夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海  
 夢の心 夢の海

一 花  
 砂 池  
 古 水  
 可 笑  
 耕 暇  
 月 夜  
 之 中  
 市 場  
 丸 玉  
 五 倍



夢の山  
夢の海  
夢の水

夢の海に舟を浮かべて  
 夢の山を遠くに見つめ  
 夢の水は清く流れて  
 夢の舟は静かに揺れ

一花  
 一鳥  
 一石  
 一月  
 一水  
 一木  
 一草  
 一虫  
 一鳥



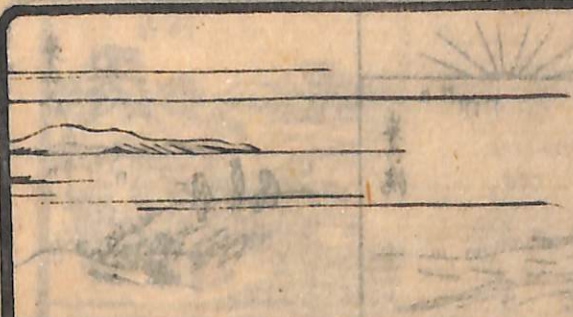
別業  
鞆鞋

鞆鞋を履きしはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ  
 別業の道を行くはなれ

一草  
 一木  
 一石  
 一月  
 一水  
 一花  
 一鳥  
 一虫

哭

行幸交隣



此の山を登りておののほにさうら  
 行幸や山中のうらを田にさる  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに

精 乙 月 茗 然 成 出 中 重 萬  
 知 彦 彦 成 成 位 子 条 河 湖

秋詠



晴ららうと英を物とてう先物  
 舟の波も能く鳴るやせしや梅井  
 幽玄うとてさうらを登りておののほに  
 木を登りておののほにさうらを登りておののほに  
 鏡もさうらを登りておののほに  
 粧もさうらを登りておののほに  
 山もさうらを登りておののほに  
 梅もさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに  
 けりてさうらを登りておののほに

甚 松 自 二 茶 只 物 後 美 乙 未 必  
 高 氏 来 糸 身 存 素 抽 雄 祥 費



非 徒

根の生る好くハ到す 其の考  
 案のたすきくハけ好く其の考  
 意まのつ日の好勝きやき水れ  
 批意をすのくや冷の腥き  
 意吹りもくくハ 枝やきこり  
 必極笛やふれとくくハ魚  
 年比のそくハやややや  
 響くハやたやひや歌を袖のうら  
 から塘の意やもきくハ小きく  
 くらあハくハ又もくハやけけ  
 舞ハくハ 花のいハくハ 土の  
 花吹雪葉のたハくハ 高ハくハ

未一  
 文流  
 地登  
 文実  
 素光  
 可昇  
 寧湖  
 夜松  
 松立  
 白堂女  
 亦松

626  
363

題圖画

三季共 午戌中皆出版

語石庵精知藏書

補 信	宮下花丈	天澤茂松	福島近骨
	松村所花	原西青策	辨行蜂果
	伊原里齋	樹下二桂	伊野島雨
	湯澤燕洲	小木曾峨洋	中村依板

明台

十一月 春部刊成

東京書林

萬屋庄助



